

CLC(Community Learning Center)を活用した 食と健康に関する ESD の取り組み

岡山大学大学院環境学研究科

山本秀樹

1. 目的

(1) ESD を我が国の公民館をモデルにした CLC を通じて普及させる。

① 岡山大学は「Kominkan サミット 2007」や「ESD 国際シンポジウム(2008)」を開催し、公民館を活用した ESD の推進を提唱してきた。これまでの参加国から 3 つの国／地域を選定し、CLC を拠点とした ESD と食・健康に関するモデル事業を実施し、教育モデルについて検証・策定する。

② ESD 推進のための高等教育機関の役割と CLC の連携について検討を行う。

2. 活動

(1) ワークショップの開催

対象国・地域はバングラデシュ(ダッカ市近郊)、インドネシア(ジョグジャカルタ市)、ザンビア(ルサカ市 Chawama 地区)の3カ国／地域で、本年度は 2009 年 1 月にダッカで、2009 年 2 月にはルサカ市において CLC と ESD に関するワークショップを開催した。

①バングラデシュ

UNESCO, Dhaka 事務所と現地の NGO の DAM(Dhaka Ashania Mission)の協力を得て、主として地域開発、保健、NFE(識字教育等)に従事する NGO、大学(ダッカ大学等)、政府(教育省等)、国連機関(ユニセフ等)約 50 名の参加があった。同国で ESD に関する初めての会議となった。現地新聞 4 紙において報道された。

②ザンビア

JICA の PHC(Primary health care)プロジェクトの活動地域でもあった、Chawama 地区(未計画居住区)の現地住民団体 CBO(Community Based Organization)の中で主導的役割を果たす、Chawama Youth Program と協力してや関係する地元機関(学校、警察)、Health center(保健センター)や JOCV,WFP 等 40 名の参加があった。ユネスコ本部の顧問を務めるコッパールベルト大学の Shumba 教授やザンビア大学の Hangombe 博士らも参加した。ザンビア大学は同地域での実習を検討する。本ワークショップはザンビア国営放送にて報道された。

(2) 我が国の公民館を拠点とした ESD 活動について視察／意見交換

インドネシアからは RCE(Regional Centers of Expertise) ジョグジャカルタの中核であるガジャマダ大学の専門家(栄養／保健の専門家)を岡山に招聘して公民館における ESD 活動を視察し、今後の計画を検討した。

3. 成果

(1) 期待する成果

バングラデシュ、インドネシア、ザンビアの 3 カ国・地域でそれぞれの実情に即した ESD 活動が行われる見込みである。ザンビアではチャワマ地区という限られた地域であるが、関係者の間で定期的に ESD の会合が開催されることとなり、我が国の公民館をモデルとした ESD 普及のアフリカ最初の試みとなる見込みである。

(2) 成果物

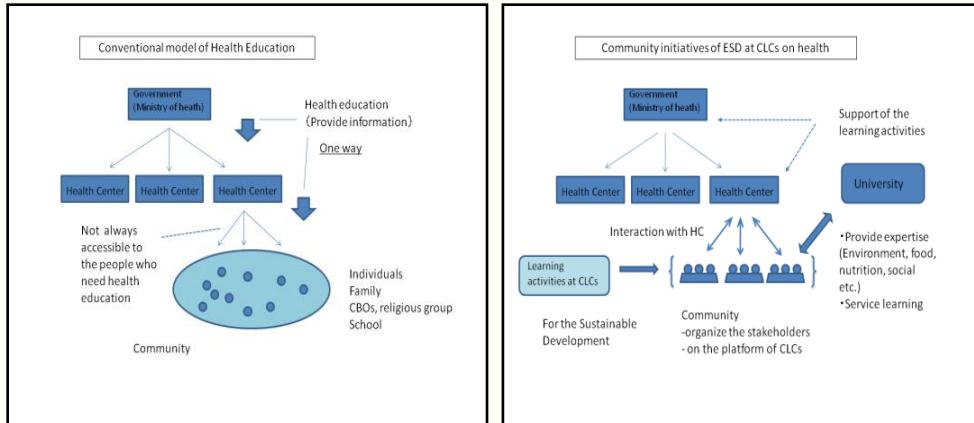
CLC を拠点として地域住民と共に ESD(とりわけ、食／栄養／健康に関連したテーマを中心とする)を推進するための地域リーダーのためのハンドブック、AV 教材を作成し活用されることを目指す。

CLC(Community Learning Center)を活用した 食と健康に関するESDの取り組み 岡山大学

目 的

- (1) ESDを我が国の公民館をモデルにしたCLCを通じて普及させる。
- ① 岡山大学は「Kominkanサミット2007」や「ESD国際シンポジウム(2008)」を開催し、公民館を活用したESDの推進を提唱してきた。これまでの参加国から3カ国／地域を選定し、CLCを拠点としたESDと食・健康に関するモデル事業を実施し、教育モデルについて検証・策定する。
- ② ESD推進のための高等教育機関の役割とCLCの連携について検討を行う。

ESDの視点を導入することにより改善が期待される保健教育



活 動

(1) ワークショップの開催

対象国・地域はバングラデシュ(ダッカ市近郊)、インドネシア(ジョグジャカルタ市)、ザンビア(ルサカ市チャワマ地区)3カ国で、本年度は2009年1月にダッカで(左写真)、2009年2月にはルサカ市においてCLCとESDに関するワークショップを開催した。(右写真)

(2) 我が国の公民館を拠点としたESD活動について視察／意見交換

インドネシアからはRCE(Regional Centers of Expertise) ジョグジャカルタの中核であるガジャマダ大学の専門家(栄養／保健の専門家)を岡山に招聘して公民館におけるESD活動を視察し、今後の計画を検討した。



成 果

(1) 期待する成果

バングラデシュ、インドネシア、ザンビアの3カ国・地域でそれぞれの実情に即したESD活動が行われる見込みである。ザンビアではチャワマ地区という限られた地域であるが、関係者の間で定期的にESDの会合が開催されることとなり、我が国の公民館をモデルとしたESD普及のアフリカ最初の試みとなる見込みである。ザンビア大学は同地域での実習を実施することを今後計画する。

(左写真: 京山公民館の作成したESD普及Tシャツを着用するスタッフとシュンバ博士／ハンゴンベ博士)

(2) 成果物

CLCを拠点として地域住民と共にESD(とりわけ、食／栄養／健康に関連したテーマを中心とする)を推進するための地域リーダーのためのハンドブック、AV教材を作成し活用されることを目指す。



CLC(Community Learning Center) を活用した食と健康に関する ESDの取り組み



国際協力イニシアティブ
第二回報告会 2009/3/10
岡山大学大学院環境学研究科
国際保健学分野
UNESCO chair program for Research and
Education for Sustainable Development,
山本秀樹




岡山大学



Science
For
Asian
Environment
Graduate School of
Environmental Science
岡山大学大学院環境学研究科
<http://www.okayama-u.ac.jp/gsees/>

日本社会における公民館と教育システム

- Formal education(学校教育)
 - Junior high school(13-15yr)
 - Primary school (6-12Yr)
- Non formal education /Life long learning(社会教育と生涯教育)
 - 公民館(市区町村立)
 - 社会教育法
 - 60年の歴史
 - 生涯学習センター
(都道府県立)
 - 図書館
 - 博物館




ユネスコが注目する公民館(CLC)

The Functions of CLCs : An Intergrated Approach



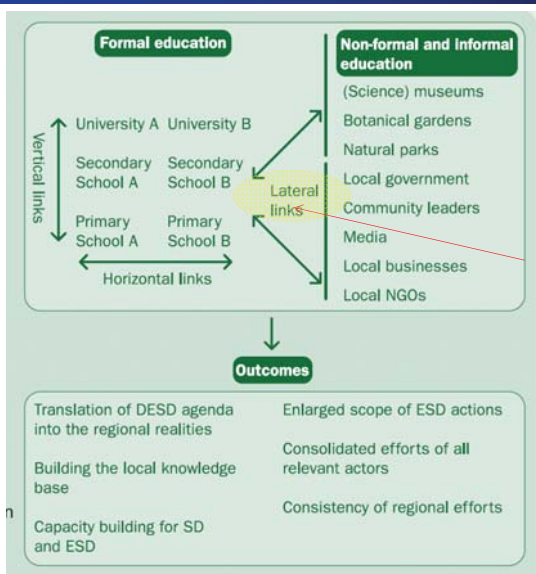
■ EFA

(Education for All)

識字だけでなく
機能的識字、地域づく
りの拠点として利用

(ユネスコバンコク事務
所提供)

ESD推進における公民館(CLC)の役割



- 公民館(CLC)が地
域でのStakeholder
を結びつけるプラッ
トフォームの役割

Kominkan/CLCs

- RCE(regional
center of
Expertise)岡山では
**公民館でESDが実
践されていた**

事業目的

- ESDを普及するために、日本の公民館をモデルにしたCLC(Community Learning Center)を活用することを提唱してきた(Kominkan summit 2007, Okayama declaration)
- ESDをCLCで実施することの有用性をモデル地域において評価
- 地域における食・栄養・健康の改善事業をESDの視点を取り入れることにより質の改善を図る
- Asiaの経験(Kominkan/CLC)をAfricaに伝える



事業概要

- モデル国・地域(過去の**国際ESDシンポジウム**参加国より選定)
 - バングラデシュ(ダッカ周辺)
 - インドネシア(Yogyakarta, RCE)
 - ザンビア(ルサカ市チャワマ地区)
- CLCとESDに関するWorkshop(参加型)の開催
 - 本年度はバングラデシュ、ザンビア国で実施
- Workshopの議論から教材を作成(handbook、マルチメディア教材等)

Kominkan Summit2007のアジェンダ

- 我が国の公民館の役割の再評価
- 岡山におけるESD促進事業をモデルにする
- 公民館・CLCにおける地域づくりの経験の情報交換と共有
- 公民館を活用し、国際貢献へ活用する



ESD国際シンポジウム2008

- 2007年のKominkanサミット
- ESDの推進 5W1Hの中で、
- どこで(Where)
 - 「Kominkan/CLCにおいて」ということが、公式に宣言
- 次のプロセスとして
- 何を(What)教えるのか？
- 「食」をテーマに実施
- 食を最優先の課題として、kominkan/CLCを活用して取り組む事を同意
- アジアからアフリカへ成果を(ザンビアから)



具体的な活動内容

- ワークショップの開催
 - 2009年1月11-12日 バングラデシュ・ダッカ
 - 2009年2月5-6日 ザンビア国・ルサカ
- 専門家の招聘(インドネシア・ガジャマダ大学)
 - 我が国の公民館(京山公民館・ESDフェスティバル)の視察
 - 意見交換(ESDと保健について)
 - 次年度のワークショップ開催準備

Bangladesh においてWorkshop開催



BangladeshにおけるWorkshopの概要

- ESDに関するバングラデシュ最初のワークショップ
- 「CLCを通じたESD」について検討
- 実施団体: DAM(Dhaka Ahsania Mission) , UNESCO, Dhaka Office
- ACCUのパートナーであるDAMとユネスコダッカ事務所が中心となり: NGOを対象(30団体)
- 政府機関:
教育省(Sililah審議官、東京ESDフォーラムに参加)、環境省
- 学術機関: ダッカ大学、BRAC大学等
- 国際機関: UNICEF等

DAMの運営するCLC



ACCUと協力して
ESDを推進
CLCは女性に学習
機会を提供

NGOの事例 (AMDA)



大使館の草
の根無償資
金協力で施
設を建設・環
境と保健・職
業訓練を実
施



現地での反響 (バングラデシュ)



Bangladesh
国における
最初の取り
組み、バン
グラデシュ
教育省も
ESDについ
て取り組み
事を表明

ZambiaにおいてWorkshop開催



Workshop on Education for Sustainable Development (ESD) through Community Learning Centers (CLCs) for Food, Nutrition and Health



岡山大学

Lusaka
5-6 February, 2009



**Okayama University , UNESCO Chair
program
Alliance of Chawama CBOs**

ザンビア国の状況



- **ザンビアの国土**
 - 南部アフリカに位置する内陸国
 - 面積日本の約2倍
 - 標高1300m前後の高原に位置
 - すごしやすく乾燥した気候
- **人口・民族構成**
 - 1964年10月23日(東京オリンピック)
 - 人口約1000万人
 - 72の部族
 - 公用語は英語、準公用語として7つの現地語
- **経済:GNP320US\$/人(2001年)**
 - 主要産業は銅鉱石の輸出
 - 農業の不振
 - 経済状態の悪化/累積積債務のため構造調整勧告

ザンビアにおける都市化と健康問題

- **首都への集中**
 - 首都のルサカ市(人口130万人)へ急激な人口流入(サブサハラアフリカでも有数)
- 首都に約40箇所におよぶCompoundと呼ばれている都市周辺地域への居住(80%の住民)
- HIV/AIDSの抗体陽性率—成人の約25%
- 貧困と都市環境の悪化に伴う疾患(マラリア、コレラ、その他下痢症)の増加
- 平均寿命も38歳(2000年)に低下している。
 - エイズ孤児・ストリートチルドレンの発生

KOSHU (public) toilet in Zambia, Africa



Opening ceremony of **Public** fee paying toilet on Dec 31, 1999, JICA Primary Health Care (PHC) Project



Miss Zambia 1999



国連21世紀開発目標 (2015年を目標) (MDGs: Millennium Development Goals)

- 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2: 普遍的初等教育の達成
- 目標3: ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
- 目標4: 幼児死亡率の削減
- 目標5: 妊産婦の健康の改善
- 目標6: HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
- 目標7: 環境の持続可能性の確保
- 目標8: 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

ルサカ市内チャワマ地区(CLC)



ルサカ市から
譲渡された土
地に各種の地
域住民施設を
住民が自主的
に建設・運営

青少年の社会教育と学校(住民設立)



ヘルスセンター(公立)と住民ら



診療機能に加えて集
会所・学習所の機能
あり



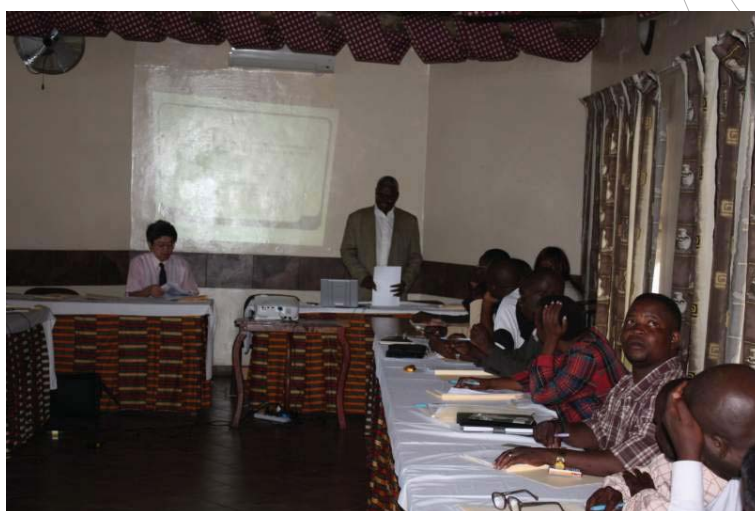
CLCでコンピュータ教育



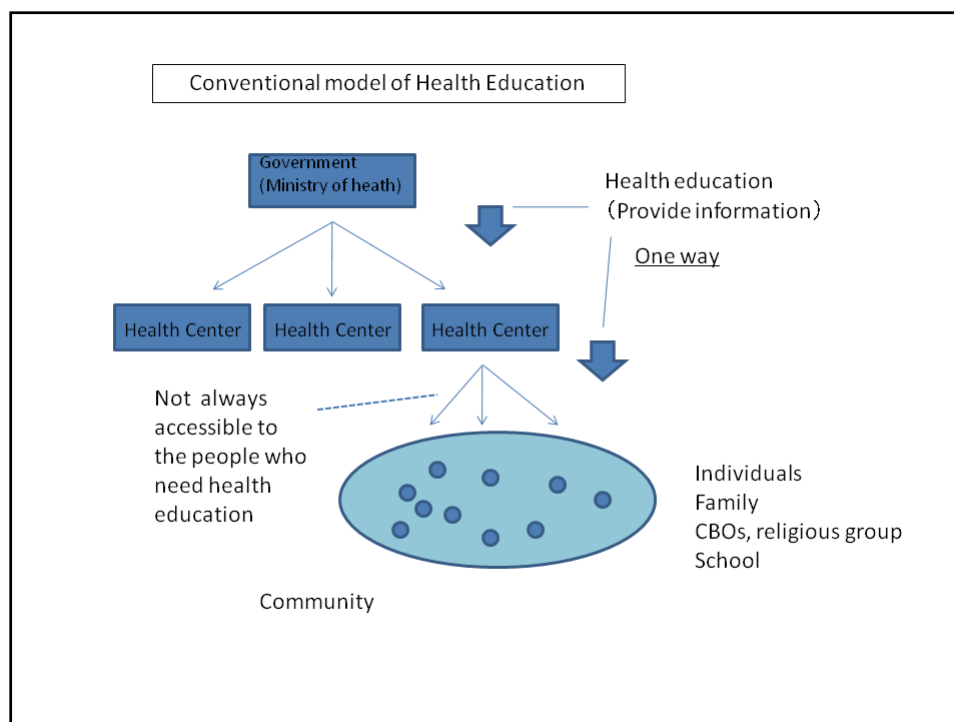
ZambiaにおけるWorkshopの概要

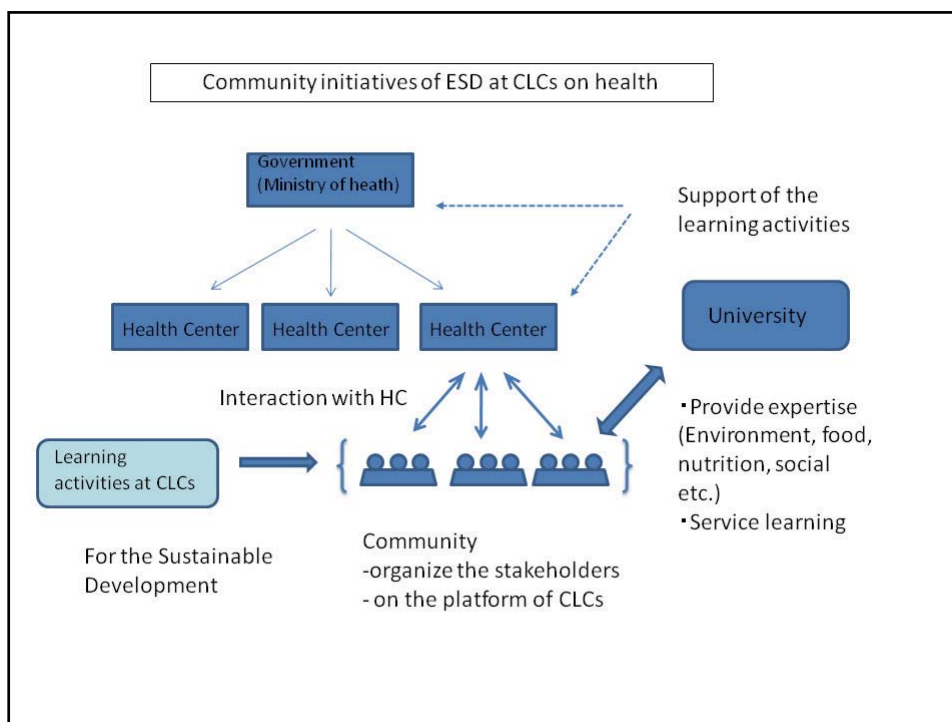
- ESDに関するZambiaで最初のワークショップ
- 実施協力団体: Chawama Youth Program (CBO)
(岡山ESD国際シンポジウム2008に参加)
- 大学の協力
 - Copperbelt University, Prof. Shumba (UNESCO 評価委員会委員)
 - University of Zambia, Dr. Hangombe (UNESCO chair 客員教員)
- ルサカ市の**チャワマ地区**(未開発居住区:人口9万人)に限定
- 「食」とESDを中心に
- **CBOが中心**(地区開発委員会、地域学校等)
- Stakeholderとしてヘルスセンター、学校、警察も参加
- NGO, JOCVも参加(エイズ隊員、栄養士)
- 地区選出国會議員も参加

Shumba教授の基調講演



住民等の熱心な参加





成果物作成に向けた進捗状況

- ESDをKominkan/CLCで実施するためのハンドブック
- バングラデシュのワークショップをもとに作成中
- モデル地区においてESDの視点で食・栄養・健康を改善するための具体的実践が進行
- ザンビアのワークショップを元に実施中
- ザンビア大学の支援(学生実習の場として選定)
- 現地でStake holder定例会議が開催予定(1回/月)
- マルチメディア教材—作成中
- ハンドブックの検証—実施予定

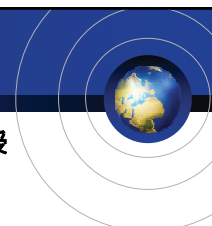
マルチメディア教材の素材：(1)ダンス



(2) ドラマ



活動実施協力者



- 阿部 宏史 岡山大学大学院環境学研究科・研究科長教授
(ユネスコチェアホルダ)
- 大久保 賢治 岡山大学大学院環境学研究科・教授
- 大安 喜一 国連教育科学文化機関(ユネスコ)ダッカ事務所・教育担当官
- 柴尾 智子 ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)・教育協力課・課長
- 名執 芳博 国連大学・高等研究所・上席研究員
- 笹井 宏益 国立教育政策研究所・生涯教育部・主任研究官
- 森本 栄二 明治学院大学国際平和研究所・
客員研究員(岡山大学非常勤講師)
- 溝田 勉 長崎大学・熱帯医学研究所・社会環境部門・教授
- 北川 文夫 岡山理科大学・総合情報学部・教授
- 小林 勉 アジア農村ネットワーク(NGO)・代表
- 橋本 徹決 COINN(特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会)・
事務局長